

【学年】 4年 【教科・単元など】 道徳 1－(1) 自立・節度「じぶんの考えを伝えよう」

【実践内容など】

○児童の実態

本学級は、自分の考えを言葉にして伝えることが苦手な子どもが多く見られる。また、自分の考えを持つことにおいても、自分からすすんで考えようとする姿があまり見られなかったり、友達の意見に左右されたりする様子もある。

このような実態から、状況に応じて自分のことは自分で考え、相手に言葉で伝えるという体験を改めてさせることから、日々の生活を振り返るきっかけにした。

○概要

- ①「じぶんの考えを伝えよう」(みんなのどうとく3年 学研)を一度自分で読み、その後、登場人物にわかれて音読する。(ロールプレイ)
- ②この場合、自分だったらどうするかを考え意見を出し合う。
- ③さっきと同じような場面を提示し、同じようにもし自分だったら何というかをワークシートに書く。
- ④グループ内で考えを伝えあい、全体に発表していく。
- ⑤自分の考えを伝えられなかったと思うことを振り返り、ワークシートに記入する。

○知的好奇心について

友達に物を貸してほしいと頼まれるが、それが無いと自分も困るからどうしたらよいか。このような葛藤が生まれる場面は普段の生活の中でよくあるので、子どもたちが身近に思え、考えが持ちやすいようにした。また、発言したいという児童は全員指名し、自分の意見を持てたことを認め、他の人がどんなことを考えているのかについても耳を傾けられる雰囲気作りをした。

【子どもの様子・反省】

資料が身近に思えたせいか、普段はあまり発言をしない子どもたちも意欲的に考えを述べようとしていた。グループ内での意見交流も、一人ひとりが自分の考えを持っているので、それぞれの意見について質問したり意見を言ったりと、話題がふくらんでいた。ロールプレイを取り入れたことも、状況の把握に役立ったようだった。

反省としては、子どもたちに自分の生活を振り返らせる時間が充分でなかったことが挙げられる。もちろんワークシートに生活を振り返った内容がかけた子もいたが、時間配分や自分を振り返らせる際の発問をよく考えておかないと、ただ意見を言って楽しかっただけの時間になってしまうので、その点において気をつけていきたい。